

森のイベント I 映画「かすかな光へ」を観て語ろう 報告

日時・場所 : 平成 23 年 7 月 16 日 (土) 14 時 早稲田大学
映画 : 「かすかな光へ」93 歳の教育学者・大田堯の挑戦 (映画終了後 30 分の大田 堯氏の講演付き)

参加者: 映画のみ : 2 名

映画と語り合い : クライアント-2 名、 保護者-6 名、 その他-5 名
有料試写会 (1,000 円) に 17 名 (含む森) 参加、 14 名が会場を移しての“語り合い”に参加。



感想:

YK : 個性が大事だと思った。

TS 父: 自分の思っていた事を言語化、胸につかえていたものを映画化。違うものを認め合う事が教育において大事。

M : 既存の価値観に反発しないと日本の社会変えられない。友人達も既存の価値観に支配されている。大田先生のような燃え上がるもの感じられない。教育に原因、教育が変われば変わると思う。

母は自分の声を最後まで聞いてくれた。外の人言葉で親の有難味に気づいた、そこから自分が変わった。

B : アップテンポのこういうやり方もあると思った。広島青年学級-ガリ版刷り、自分の声が入っていた。今の子ども・若者は自分の言葉で表現しても取り上げてもらえない。

自分の起業の動機—落ちこぼれの状態から、大学に入れば人生変えられると思いき高認取って早稲田入学。食べるため自分のしてきた道を生かして人を助ける。

自分自身が大学に受かった事で人生が変わった。これを若者に伝えたい。

T : アメリカの先生は明るい、日本の先生は暗い。

ID : 息子は小学校より不登校。中学の担任が良かった。間違っても公立の教育相談には行くな。アメリカに 20 歳より留学して良かった。日本では目立つと叩かれるが、アメリカでは受けた。今は会社員。

IU : “ちがう・かかわる・かわる” が同人社（馬場、竹内氏の会社）に似ている。自分のやっている事に自信もてた。人と励まし合って成長していく。個人 1 対 1 の関わりが連鎖して社会を変えて行く。

S : なんで元気か聞かれた時、僕に夢があるから生きられる。

TS 母 : 一人ひとりの個性を引き出す。しかし子どもが親と違う夢をもっているのを認めていいか。息子はボクサーになりたいが、親は危険で反対。

TU : 凄いなと思った。93 歳—自分より 65 歳上。青年学級「人の良さを利用されるだけ、後で後悔しても知らないよ」と云われ、大田先生ショックだったと思う。教育を仕事として行くのは情熱より忍耐が必要。夢に生かされている情熱がある。あのレベルで次世代を育てるか。周りにいろいろいわれても今もやっている、素晴らしい。“ちがう・かかわる・かわる”。

I 母 : 娘小 4 から不登校。毎学期、目標は普通になりたいと書き続けた。卒業式の担任・校長へのメッセージは“自分はいないものと思ってくれ” 娘の生きざまは普通には合わない、本人のペースだと気付いた。親も学校も普通に、皆と同じだと云ってきた。当人も云われ続けて変えられない。個から発生するものを大事にする。

Y 母 : 愛と夢があれば何とかなる。4 年半ひきこもっていた息子が家から出て思った。感動した。森さんは私の拠り所です。

まとめ:

クライアントとその保護者、早稲田出身の起業家とそこでアルバイトをしている早稲田の学生たちが集まる折角の機会なので、映画鑑賞後 1 時間くらいお茶を飲みながら語らう会をしてみようと思いました。映画鑑賞の場から語らいの場まで歩いて 10 分ほど、クライアントと学生がわだかまりなくおしゃべりしながら移動し、大田先生の素晴らしい生きざまに感動し、1 時間が 2 時間以上におよび、辺りが暮色に包まれ始めた頃解散となりました。

クライアントの田中君が口火を切ってくれました。

後日この日の感想をクライアントに聞いたところ、映画より同年輩の学生たちとおしゃべりしたことが楽しく印象に残ったようです。

今後もこのような集まりを企画したいと思いました。